

海保漁村先生遺書

210  
73  
1

海保深村先生遺書



周易口義

一二

莊子外篇

四書相承說

抱腹談

高松貝陵

周易曰義

乾坤



一



○乾之字利貞が象し乾と坤と云うはヤリ列し経傳トテ入レトクハ利貞  
ノ實直がナセシ昔しがコリナリト云テテキレシ坤卦ヨリハ鄭玄王  
ノナラシト云ニ或ハ三国志魏ノ白皇后ラ向レシテハ考レバ乾ヲ鄭玄冲ヲ主  
トシテ乾ト云フリ今ノ本は宗ノ昆ん区ヨリ呂東萊朱子一カウニ  
ナレバ乾バアルナリ知レ三画乾ニテカカ子テモ乾也  
元亨利貞之四はノ又トス文ニテハタラカセシ又象傳ニ乾元坤元トアリ程  
子コレヲ一トスカニ非シ本とハ朱子ノ在リシ乾物ニレバ天人ニレバ君父夫  
物ニレバ金玉等ナドシト主とハ乾ハ健也氣ウヨイニ一交レニレバ剛アハセテ  
ニレバ建勇健亨物ヲニルニト火ノ氣カトラルハ世作享人ヲモテナス款上モ  
スル榮ルハ主人ノ意鬼神トスレ健ハモトニアラハカレハ物カテキス  
利貞コレハノ言ニ直ニアリ貞ニ美善アリ正ト固必ノ美アリ正也固必也  
フヨラスカヤカサモハ物ヲスルガ止レクナケレハナラス存典剛而止柔洵淡而  
大ニ一ハ成就スルガ止レクナケレハナラス存典剛而止柔洵淡而  
古ルルガソレニマカセテ無理ヲ云フソレカワルイ正レクナバ又  
元亨利貞ト云フハノ月の中ハ卦ノ○知レハ初レノ爻レタメ又ニテ云フ七九  
六ハ陽也ハモトニカレバ此レハ又ニテ云フ七九  
一ニカレバ陽ノ教ニ理ノ三十一六ノ陽ノ教ニ比ス實地ニカレバ  
陰伏トス艱ニカレバノ用トスルハト坎六三ニテ云フ用イテ又ラセザルナ  
世ニ用ラレ又君子隱者ニ伊尹傳記ノ潛也ニ慮及ニカレバト

世相ノ又天下ノ故ナトニハ○ラタス大ナリ謀レモノテナレ  
○九ニ文ニ天下文明ニ又爻が象し目見ト云田ハ地也  
ノ爻ナル如大人ハ女ヲサス大君ノ君子也代ハ身カモニ用ルル  
ノ用ヲナス天トシテ又ニアツカル也大人ハ君子ノ只文ニニ文メハニ文  
メ且文メハ女ヲサス大人トス利儀ナリ朱子利剛ニ下ニカレバ大人ヲミル  
利也大人多ク家ノ幹トアリ一爻ノ剛ニカレバ九山象一卦也且文メハニ文  
易傳田ニ時ノ存カ田也時トス非ニカレバ九山象一卦也且文メハニ文  
○九三君子ト云モ此ト云モ三ニカレバ九山象一卦也且文メハニ文  
イテイハルハヤレ一卦ノ剛ニカレバ九山象一卦也且文メハニ文  
云レハ地山象謙一卦ノ剛ニカレバ九山象一卦也且文メハニ文  
若クハ謙見申シメ夫レハ沈若若若揚ラセル死ハ又ニ天ト云ハイモハナイ  
長天之陰陽長天布陰陽子若存トフケル所若若若若通レシ後ノ六  
三ニモアリアヤウイハト思ハカレバ天ニカレバ九山象一卦也且文メハニ文  
危ウカフタカモクナリトスルニカレバ九山象一卦也且文メハニ文  
ニカレバ上ノ氣ヲ兼ル下ヲカ子ル三ハ上ラウミシハ下トシテ  
ヲカレバ初ハ初ハワルイモ無百終ハ終ハソウシカレバ九山象一卦也且文メハニ文  
ワイカレバ生ズルニカレバ九山象一卦也且文メハニ文  
七ニカレバト思ハカレバ九山象一卦也且文メハニ文  
九四口カレバカレバ九山象一卦也且文メハニ文  
伏ノ象又互体カレバ九山象一卦也且文メハニ文





リワカシ 禮身ハ礼ノ子ニ普天之下 小雅 禮告世云善ハ田ヲ至ニテ云フ田ノ商

禮ニ道ニ至ルハ後ノ家又後アリ打カヘテ道ヲ行フニ及後道ニ及後道ニ及後道

子其長成者不長未成者不長 進マワカ進ムイカト云ル処ナリヨリヨリ

スレバニヤガイナリ 大人礼ヲトリ 道ハ礼在更トク 朱道作トスル物起ニヨチツ

ケル非 造イタル 造ナス 大人チナケレバテキ又

元礼 禮ヲスラフ不万久ハ悔ヲトリ 益ハ持由ニテナト云ルハモチニク不唐ノ言也

用レラズ天臣ヲ大ル 五傳ニアリ天ハ剛直ナレハ不犯 寒ハ日者ニエブル 身ハナクナレ

用ハ神ニヨリル 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ

文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ

文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ

文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ

文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ

文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ

文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ

文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ

文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ

文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ

文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ

文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ

文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ

文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ

文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ

文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ

文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ 文ナリ



幹之之盡... 出木ノキキ... 人ハ正シク...  
乾ハ君子シテ元ヲ仁亨ヲ礼利多ク...  
坤ハ君子シテ元ヲ仁亨ヲ礼利多ク...  
... (transcription of the right page) ...

田ハ地ヲ用テ... 出スルカ... 用ラレテ...  
... (transcription of the left page) ...

ソウテハ... 進ムキニ... 賢人ニシテ...

不登ハ邪ヲ云... 君ヲ... 賢人ニシテ...

○ 賢人... 天下... 賢人ニシテ...

○ 賢人... 賢人ニシテ...

○ 賢人... 賢人ニシテ...

賢而充位... 賢人ニシテ...

○ 賢人... 賢人ニシテ...

○ 賢人... 賢人ニシテ...

○ 賢人... 賢人ニシテ...

○ 賢人... 賢人ニシテ...

○ 賢人... 賢人ニシテ...

言わば改ニシテ中ニ大革ノ象アリ...

位身之徳位天位テ徳无臣ヲハ人ナリ...

元也 徳ノ徳也スルハ此ニ在リ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

ナカレバ味アリハ味アリ...

日々に... 運之... 氣三才... 氣三才雨之上... 小人位... 大位... 天... 地... 人... 位... 運... 氣... 天... 地... 人... 位... 運... 氣... 天... 地... 人... 位... 運...

天... 地... 人... 運... 氣... 天... 地... 人... 位... 運... 氣... 天... 地... 人... 位... 運... 氣... 天... 地... 人... 位... 運...

坤

三爻ニテモ坤ニ坤天地ニトレバ地ニ人ニ取レバ母トス乾ヲ君トシ坤ヲ臣トス乾ヲ夫トシ坤ヲ妻トス  
 説卦ニ坤順ニ主トシ卦ノ徳ハ順ニ説ク然レバ事道臣ノ道ヲトス  
 坤元亨利貞地ノ事物ヲ生テ元亨ニ事ノ上ニテハ柔順ニシテ無事ニ大成執事ニシ  
 利北馬之貞ト乾ヲ雄馬トシ坤ヲ北馬トシ此ニテ柔初処ヲミセ馬ヲテスガヤカト味ヲミセル喜ハ  
 夫ト順フナリニテラズサバトシテ働ラタヌケレバナラヌ臣モカケテラヌケレバナラヌ意  
 坤味ハ北馬ノニウハテサテワコリ働クニ事當境安世況是ナリ項安甘南越ノ方  
 使ニテイビスノモノニ同ク成テ馬ヲラフニ牡馬一匹牝馬十匹位ツ、ツキテ外ノ牡馬ノ方ハ  
 行カトイリソレニテ居ニ後来アルヲ知ラズ有攸性ハ易ニテナシテモ喜スルニ  
 云ニ主利ト云無例ノ語ニ後得主利ト流ベシ坤ハ陰ニテラキニ説クモヨクトス  
 坤陰ニ属ス得ノ象利徳ノ象ニ喜ルモノ夫ノ差因ニ先ワハ道ニクフキニ後  
 ハサシツテ得テス利ヲ下ヘケレバ況モアリ文言ニ得主トクニ先ハ月ハ迷フテ  
 主ヲ考テ善ニ不利ニ先テハ至ニサカクニ得主ハ得君ノ味利字折中ニアトハ  
 元ハ不元ニ似テリ水山震利西南ト云テ北トス非是西南ニ方トシテモ元陽  
 際トシテモ坤ニ陰ナリ東北ニ方トシテモ長ノ隅トシテモ陽ナリ  
 朋陰ナレ陰陽ナレ陽ノ直ナル処ヲ朋ト云得朋ハヨク先朋ハヨク  
 易ニ於テ陰ヲ女トシ陽ヲ男トシ善人君ヲトス陰ト陰トフニナル  
 臣ト臣トナレラフ君ノイラ疏畧ニテ臣下同トシ位儻スルニ東北先朋ハ同輩  
 故トス西南ト云ハ臣カ臣ヘ位儻スル東北トス君カ臣カ地ハ萬古不易ノ象  
 ハ西南ト云ハ臣カ臣ヘ位儻スル東北トス君カ臣カ地ハ萬古不易ノ象

君子行安貞吉

君子行安貞吉  
 坤元ハ地元氣ナリ至リキハハツタモノジヤ至テ坤元ト  
 云ナレモ至字ニ深切ノ味アリ乾ハ坤母ナリ母子ノ養育スルヲ至テ深切ニ周礼  
 至徳祭義至道史記至言至字至意ナリ乾ハ父ニ大トス地ハ母ニ大トス出ス賢ハ地  
 ノ元氣ヲ順ト地ハ元氣順ヒウケルニ天ヨリ雨ヲ下セバ養生ノ生カレナリ地ハ形ノ  
 厚イモノニ又ソノ徳アワイ行ノ萬ニ味ヒモアリ徳ノ教厚テ云フ元強ハ天イ  
 元ノ七ヒルハナヒ元強徳ニモ又ホムノイモナレ天ノ徳ハ限リモナリ廣ヒ又厚リ  
 元ノ長イニ廣大長久ノ両方ニ弘寛弘ノ味聖人ノ徳寛弘ニ萬民ツ  
 容レバ地モ同先元ニ云ヒソクナレ地モ花ツサカセルナト先ナリ含萬物ヲ  
 兼ワム先ハ生者アキラカ大方物ヲ載セテ置ルハ廣ク大ニメ覆テ萬物ヲ  
 成亨クシテ成執ス地ニ属ス馬地ツカケル獸スガヨカス元強ト云暗ニ  
 乾ノ龍ハ天ニ属スモノ云飛龍ト云馬ハ行地ト對メヌフ行テラフ行ニナラヌ柔順  
 ニテオラバト云テ利シテ正シク守ルコト加君子ノ所行ナリ柔而亨味ナリ  
 温良柔便中庸寛柔郭敬云易用柔之道コトナリ  
 史ヲ退ケテキフテハワスタ路ヲフミニヨクテトナシテ行ト居シテ後ヲアリクニシテ云  
 臣カ君ニ先タテテ先スレバ道ニシムキナリ後トナシテラウケルソレハ順道  
 田原ハ陰ノ方臣カ臣ノ方一行ク交朋交同類ニ東北ハ陽ノ方一旦ハ中間ハシラヌ  
 トラカワルソノナレ始然ハ道安貞之責君子ニ地モ元強ナリ地モ元ルガ又萬古  
 不易固ク安クコトニ云ナリ君子ノ道ヲ行フ  
 象曰地勢坤上下ニ地アリ山モアリ高所相遠テ厚ヒモノ相重ル勢ヲ云

以の君子ヲ初物ハ初ト来ラシ 厚徳ヲ人トステ又切リイモルヲモ容レテラク中庸傳

厚載物 内一モウノ徳ヲ積ム具フ 又徳ノ内一ノ民ヲ載セテラリ

初大 霜ハ陰ノ始トシ 履ニ足屬ス初文ノ象 堅氷ハ陰ノ增長ニ及ル象

坤ハ初ノ卦象ニ 在ニ十年唯正月之書隱未與 隱ヲ陰氣ト云ハ

惡人ヲ用ルモ初カカラ大政大臣ニハ上ラヌタシク 勿ルノ一トクニモ

中國 女寵乱王下ニテ出リ 智宗モ始メハ楊貴妃ト云ヘ都ノ一トクニモ

象曰 履霜ノ下堅氷ニテ字衍文 本義是ニ 其道ハ陰ノ才ニエハ

得朋 直方 陽唐ノ句 直方大 坤地ノ象 真ノ万物ヲ生スニ直クニ生スル中

本人同ナド 方ハキニテラシ人カニナリ 竹ハ山ニナルナリ 大

行ニ取ルニ女臣ノ位 臣妻ノ道直ニナケドスニ諫ハキニイサム

左傳義方コウエウノ 義ニカナフ 向クニキリノアルニ 大

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未

ハニ 當ラズルソウ 不習ニ徳アレバ字同セズトモイ 雖未







蒙ハクテヒ子トモニ教フル人ヲ教フル師シ  
トテ君師は下ナリ物ナリ 此道多ク必  
人モ更下モアリキ和ヲレバコリ生カ  
道亦持 有難ク難アリテ極ムラ  
タニシカタク守テラレバヨシ 勿用  
ツスルハワルイ地ノホアリテ  
又トナリ外テキ又天下ノ中  
採ツテハ味オスル難クモナ  
トナリ下ノ功立三ツノ階シ  
此道天運也天ノナス  
此道天運也天ノナス  
味クラヒ白味ヲ月カテ  
天ノ下ハ地ナリ

レバハメリタル世ニミナ天下ト  
天ノ位ニシテ道ニ愛シキ  
主向ハ地比ニ不方方  
クライ成ハイツレ活  
ヨイトニハシカモ不  
此道天運也天ノナス  
味クラヒ白味ヲ月カテ  
天ノ下ハ地ナリ

此卦ハ九カ主文ニ多ク卦ハ  
此卦ハ九カ主文ニ多ク卦ハ

二ハ三番桓ト云又互良良ハ抑（ル）震ノ動イテ上ルヲ畏ルヲサ（レ）ン居良スノコトヲ  
 ソレガ止シキナリ（建侯 豫ニモアリ）ヨリ四坤地ノ形震百里（セ）ン諸侯ノ象（百里ノ  
 西（ヒ）ドクニ）震ニ諸侯ノ象アリ（雷地豫上震下地ソクニ毛利建侯トアリ）初九雖  
 於中是非（レ）ヲ知テ止シテ守ルニ至ル（ナ）リ（震ニ）建侯ノ象ハ（ハ）セテ止シテ守ル（ニ）  
 イテワタラレレ知難而止（シ）止（ル）ニ至ル（ニ）至ル（ニ）至ル（ニ）至ル（ニ）至ル（ニ）  
 建侯天子（ノ）象（フ）シレカ味方（ト）シテ（ル）功（ノ）象（ハ）ホ（ル）ル（古）人（ノ）百（里）  
 象（ノ）象（ト）大（カ）カ（マ）フ（テ）ス（レ）バ（ト）ナ（リ）モ（ト）モ（ト）シ（象ノ）象（ノ）象（ノ）  
 止（モ）ト（リ）テ（止）ム（ニ）又（ソ）ウ（ウ）中（ノ）マ（フ）レ（ス）出（ス）オ（サ）リ（テ）モ（イ）カ（ス）バ（ク）チ（ヲ）  
 マ（リ）止（シ）テ（行）フ（テ）止（ム）ソ（ウ）ス（レ）バ（ト）ナ（リ）ソ（コ）テ（行）止（シ）ワ（ル）イ（ヤ）ウ（チ）  
 ソ（ウ）テ（ナ）シ（テ）止（ム）ニ 震（ノ）陽（賦）陰（九）得（民）一（陽）テ（象）ヲ（ヒ）キ（ワ）ル（ノ）コ（ト）ニ（下）  
 三（陰）上（ヨ）リ（坤）ヲ（氏）ト（シ）故（ト）ス（明）女（ナ）ク（フ）ク（形）由（ノ）象（ヒ）ラ（ル）テ（イ）ヤ（レ）  
 カ（ラ）三（十）ナ（リ）手（取）ル（ニ）建（侯）ノ（君）ヲ（ホ）メ（タ）ル（シ）大（得）ノ（象）  
 象（ノ）象（ト）用（ラ）レ（ヌ）又（シ）云（云）止（ム）正（シ）  
 ○六二 匪寇婚媾 初九（ノ）象（ト）カ（レ）  
 易（三）如（此）睽 未（初）交（カ）ラ（ヒ）ワ（ル）ハ（ア）ク（テ）イ（シ）レ（ト）夫（婦）  
 月（ノ）形（ト）イ（ル）ハ（フ）  
 道（カ）ル（タ）チ（モ）ト（ル）  
 下（動）馬（ノ）象（ト）  
 班（カ）ル（目）  
 傳（善）  
 班（割）  
 馬（之）  
 七

初ハ比卦ノ主ヲ受（ル）人（ノ）  
 二テハ通（ス）ス（レ）  
 夫婦（ニ）テ（ル）  
 ハ（卯）名（シ）夫（ノ）許（嫁）  
 十年（モ）モ（立）テ（ハ）  
 三（マ）ラ（シ）ム（也）  
 正（ノ）  
 多（シ）  
 ○象曰 難（ト）也（道）  
 易（中）  
 十（年）  
 ○六三 鹿（ノ）  
 林（ノ）  
 人（ノ）



周易

蒙 需 訟 師 比 小畜  
履 泰 否 同人

二







か考法し陽在下にワトテヒガキイ智ガノ弟はヲ守テラルレ一義し先世トハ神意  
コイニキヌトミキルン 難ハ此ノ川歩カトテモエカシト待テラルン 未定帝弟はヲ失ハシ  
ミタリニス、ミタカルト智ハノ弟はヲ失フン

○九ニ沙川ハタノスナモユキテコイフエカシ又トモテマツン 難ハ此ノ道ニシヌイシ  
知テスニヌシ 小右ニシテモアリ 首ノハ道ノ端力成ハシラレセマシル 難ハ  
九モノシ 漸リ水ハ迫イテラレハニクハヒトクハナク 行ハ吉シ 却シカ人ニニ道ハ早ク

行ハ吉シ 却シカ人ニニ道ハ早ク 行ハ吉シ 却シカ人ニニ道ハ早ク  
行ハ吉シ 却シカ人ニニ道ハ早ク 行ハ吉シ 却シカ人ニニ道ハ早ク  
行ハ吉シ 却シカ人ニニ道ハ早ク 行ハ吉シ 却シカ人ニニ道ハ早ク

○九三 泥川ハタイ足ヲフンシカハカライカヲヨソウトシ 故ノ丸ニ見ハユ  
ツイタシ 泥ハイツテカフムリヨソウトスルトムカレイ 海邊ニシカタワルケレバ  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス

○六四 坎ハ足ヲフンシカハカライカヲヨソウトシ 故ノ丸ニ見ハユ  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス

○九五 君ヲ改メテカライカヲヨソウトシ 故ノ丸ニ見ハユ  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス

○九六 君ヲ改メテカライカヲヨソウトシ 故ノ丸ニ見ハユ  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス

○九七 君ヲ改メテカライカヲヨソウトシ 故ノ丸ニ見ハユ  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス

○九八 君ヲ改メテカライカヲヨソウトシ 故ノ丸ニ見ハユ  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス

○九九 君ヲ改メテカライカヲヨソウトシ 故ノ丸ニ見ハユ  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス

○一〇〇 君ヲ改メテカライカヲヨソウトシ 故ノ丸ニ見ハユ  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス

○一〇一 君ヲ改メテカライカヲヨソウトシ 故ノ丸ニ見ハユ  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス

○一〇二 君ヲ改メテカライカヲヨソウトシ 故ノ丸ニ見ハユ  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス  
ツシテモヨクヨクニナルン 解ニ更旦乗取臣至 心得ヨクテモシイタス



訟ハ人ト争ヒ言ルニナレバ言ハ公言ハ公ハワラズルニ

序卦ニクヒテ争ハ元二ハ法テ受トム序卦

貞亨ト云ルニ凡ハ一ノ難民之先徳能信以愆 自ら受テ不讓 互ニ曰ヒテ 泉池實カ万者公事之及

之何而作也ナレバ稔ノ精ニテテモレハハリテヨリ争ヲモル 左傳明也而シテ 明ラカナルハ人ヲラモイ

ヒテハ争ナレバ一帯ノ稔ニテ争ヒテモレハハリテヨリ争ヲモル 左傳明也而シテ 明ラカナルハ人ヲラモイ

ニトモハハレテ外別ニ別ニテハハリテヨリ争ヲモル 左傳明也而シテ 明ラカナルハ人ヲラモイ

天ノ上トモハレテ外別ニ別ニテハハリテヨリ争ヲモル 左傳明也而シテ 明ラカナルハ人ヲラモイ

之物モモハレテ外別ニ別ニテハハリテヨリ争ヲモル 左傳明也而シテ 明ラカナルハ人ヲラモイ

乾トモモハレテ外別ニ別ニテハハリテヨリ争ヲモル 左傳明也而シテ 明ラカナルハ人ヲラモイ

成アリテモモハレテ外別ニ別ニテハハリテヨリ争ヲモル 左傳明也而シテ 明ラカナルハ人ヲラモイ

魚ノルニモモハレテ外別ニ別ニテハハリテヨリ争ヲモル 左傳明也而シテ 明ラカナルハ人ヲラモイ

吉トモモハレテ外別ニ別ニテハハリテヨリ争ヲモル 左傳明也而シテ 明ラカナルハ人ヲラモイ

今ノ事多クハラフニケルニ聖人ノ意ナリ 妙ナリヤセセルカ 天理ニ合セル 今内情ハ洗ハカフ

テモワリイニ 此ノ如クモテモライタリ 佐ハハリテヨリ争ヲモル 左傳明也而シテ 明ラカナルハ人ヲラモイ

ニハ胎ヲハハリテ外別ニ別ニテハハリテヨリ争ヲモル 左傳明也而シテ 明ラカナルハ人ヲラモイ

此ノ如クモテモライタリ 佐ハハリテヨリ争ヲモル 左傳明也而シテ 明ラカナルハ人ヲラモイ

人ノ大事ヲタルハ人ト争ヒ致スルヲテニデキ又人ト和短セセケルハナラズ

君子無事ヲルハ人ト争ヒ致スルヲテニデキ又人ト和短セセケルハナラズ

卦爻ノ如クニ 三ニテヨリ 未起要ノ位ニ 得中ニオケル

或ハシトケルニ 或ハシトケルニ 或ハシトケルニ 或ハシトケルニ

ヨリテハ 中兵キケルニ 中兵キケルニ 中兵キケルニ

故ノ固ニモ入ルニテム

○象曰 此白也 和天ノ上ルニ 運行上ム 動不允 陽見山ニ 上ヨリ 危ノ川ニ 東ニ 流レル

○象曰 此白也 和天ノ上ルニ 運行上ム 動不允 陽見山ニ 上ヨリ 危ノ川ニ 東ニ 流レル

○象曰 此白也 和天ノ上ルニ 運行上ム 動不允 陽見山ニ 上ヨリ 危ノ川ニ 東ニ 流レル

○象曰 此白也 和天ノ上ルニ 運行上ム 動不允 陽見山ニ 上ヨリ 危ノ川ニ 東ニ 流レル

○象曰 此白也 和天ノ上ルニ 運行上ム 動不允 陽見山ニ 上ヨリ 危ノ川ニ 東ニ 流レル

○象曰 此白也 和天ノ上ルニ 運行上ム 動不允 陽見山ニ 上ヨリ 危ノ川ニ 東ニ 流レル

○象曰 此白也 和天ノ上ルニ 運行上ム 動不允 陽見山ニ 上ヨリ 危ノ川ニ 東ニ 流レル

○象曰 此白也 和天ノ上ルニ 運行上ム 動不允 陽見山ニ 上ヨリ 危ノ川ニ 東ニ 流レル

○象曰 此白也 和天ノ上ルニ 運行上ム 動不允 陽見山ニ 上ヨリ 危ノ川ニ 東ニ 流レル





原唐秦以來再立テルラズモ 蒙ノ以ノ陽下ニラシム(初至ト云コソト上)ヒリテシクニ(原  
ト云古(唐前テ占)良ヲ為免真門(唐ノ象ノ象)又良ヲ身トシ 商ノ前(一  
人アリテ坤ノ中スノ多イモノヲ良ヲカフニ 此ハソノ負ク固ク守テヨリ 人ト親シ  
ヨリカカ(親シニユケレバテラヌ 乱世トハ親シム人ワルケバ七ノ味方ハテキ又ユニ成女モ  
くモ占テミルハヨリ考(テミル) 今ノ世ニテモキキキアリ) サテ又以テ信テカラスハ固ク  
首守ラヌケバオラヌ 反信(後)不登(一)ワルキハヨソウト思フテフイソノハヨクニ  
トシ) 不寧(以)難(多)シ(レ)シテハ(無)クノ陰(云) 乾(一)ヲカニヤキヲカ(坤)ノウ  
ニ(タ)レ(シ)フ(ク)ハ(陰)ノ(万)民(ト)ウ(シ)テ(モ)ヲ(サ)ラ(ヌ)又(ク)ノ(信)ノ(人)ノ(ワ)カ(ヌ)ケ(レ)バ(ナ)ラ(ヌ)又(方)ノ(一)  
後(夫)凶(三)字(古)臣(疏)走(虛)字(後)夫(凶) 荀(楚)  
解(包)信(楚)凶(程)氏(後)其(老)凶(若)類(前)夫(ト)ト(カ)レ(ル)セ(フ)ハ(老)ト(ヨ)シ(カ)ル(非)  
易(陰)陽(ノ)合(ニ)ハ(陰)ノ(ヲ)二(千)ガ(ハ)イ(ハ)シ(セ) 後(老)ト(カ)ス(上)六(左)ニ(サ)ス(レ)ハ(陰)ニ(シ)テ(夫)ヲ(イ)フ(能)  
別(シ)鷹(細) 且(楚)凶(是) 後(上)六(老)ト(カ)ス(比)ノ(ト)親(シ)ラ(フ) 如(ク)人(ガ)三(十)親(シ)ガ  
ニ(已)レ(バ)リ(親)シ(ニ)モ(初)ヲ(ウ)ケ(ル)小(田)原(北)條(自)早(リ)親(シ)ニ(マ)八(年)ニ(テ)シ(ク)シ(マ)シ(止)  
サ(レ)タ(ヨ)イ(人)ノ(ツ)ク(早)リ(ウ)ク(ベ)キ(左)傳(ニ)ソ(ノ)味(アリ)妙(止) 吉(也)也(子)何(ト)云(朱)ハ(三)字  
何(ト)云(朱)是(下)地(信) 且(左)ノ(ウ)ク(剛)中(五)爻(剛)地(中)ニ(シ)ラ(フ)ソ(ノ)人(之)柔(至)ニ(テ)人(ト)  
是(云)道(ヲ)二(千)カ(ハ)又(至)弱(ノ)人(ノ)為(カ)ル(カ)ラ(フ)キ(ハ)又(サ)ラ(バ)ト(テ)止(ラ)ル(ヌ)ケ(レ)バ(ナ)ラ(ヌ)又  
應(且)一(左)ス(ル)上(下)ノ(五)陰(五)爻(ツ)ク(其)通(齊) 向(入)レ(ラ)レ(ヌ)日(セ)フ(テ)モ(一)ノ(ン)ア(ト)  
カ(ラ)服(ヲ)ト(思)ハ(ヨ)ク(ツ)バ(ヌ) 後(漢)董(有)果(云)三(十)降(者) 公(孫)述(回)業(ハ)敗(セ)又(又)ハ(ア)  
ノ(道)リ(シ)ニ(シ)ク(ム)道(原)ニ(テ)シ(ク)シ(レ)ヌ(ヨ)ウ(シ)ラ(シ)

乾坤无(ノ)方(カ)ラ(大)為(ア)レ(ク)シ(ム)ラ(ズ) 万国(ハ)坤(シ) 諸(侯)ノ(ソ)ノ(上)ニ(シ)イ(テ)アル(ハ)水(ニ)形(カ  
トシ)一(本)ニ(シ)テ(坤)象(ニ)シ(テ)地(上)ニ(レ)ル(ノ)万国(ノ)上(諸)侯(ニ)シ(卦)ノ(本)文(テ)ハ(方)國(カ)ラ(フ  
天子(ヲ)シ(シ)ム(万国(ト)シ(昔)黃(帝)職(録)アリ(黃)帝(万国(ヲ)シ(履)ノ(七)ノ(并)春  
シ(テ)大(國)ニ(シ)古(古)名(ト)シ(モ)日(本)礼(以)ノ(城)モ(千)タ(テ)モ(千)ン(イ)シ(左)傳(百(三)十(國)キ(ト  
アリ) 〇(初)六( 子(ノ)坤(ノ)象(ノ)カ(ク) 岳(モ)土(君)ニ(坎)レ(坤)ノ(下)リ( 孟(子)左(傳(長(谷)公(年  
水(多)也(レ)ノ)一(ハ)イ(ニ)千(タ)ル(坤)ノ(下)ニ(坎)レ(一)ハ)イ(ニ)千(タ)ル(比)五(五) 九(ノ)君(ノ)又(即  
州)アリ(ニ)大(國)ノ(子)ニ(試)アリ(テ)カ(ヘ)リ(ミ)ニ(シ)タ(シ)メ(ハ)元(君) 岳(ハ)北(カ)カ(ハ)イ(ト)人(ノ  
カ(カ)リ(アル)ニ)テ(初)リ(ニ)シ(文)師(ノ)キ(ヤ)リ(ニ)実(ヤ)カ(ミ)チ(テ)アル(バ) 他(ハ)已(カ)ガ(カ)セ(ユ)卦  
ヲ(云)存(ニ)シ(モ)ヨ(ラ)又(時)ノ(ガ)ヒ(リ) 七(道)中(子)ニ(池)子(子) 四(ノ)左(テ)カ(カ)ラ(テ)ナ(イ)カ(ル)ウ  
サ(イ)ハ(イ)来(ル) 〇(初)六(ニ)自(内)卦(シ)内(卦)ヲ(ラ) 蒙(ハ)左(ル)ニ(カ)レ(フ)レ(バ)シ(又)今(ノ  
ヒ)フ(ハ)ノ(中)ヨ(リ)ス(シ) 外(比)ス(ト)キ(フ)ニ(レ)思(フ)テ(人)ノ(ワ)ウ(レ)カ(ヌ)ガ(ソ)ウ(キ)イ(テ)ヨ(イ)シ(シ  
心(ノ)内)カ(ラ)信(人)ヲ(シ)ク(シ)ス(バ) 不(自)失(一)カ(ウ)一(ノ)ナ(イ)ド  
〇(六)三(比)之(匪)人(蒙) 困(蒙)上(同)蒙(上)下(陰)ニ(シ)ウ(ラ)ナ(中)ニ(在)テ(故)一(テ)ク(レ)ル(モ)ノ(ナ)イ(左)ス(ル)也  
王(陰)ニ(シ)モ(同)人(ト)親(シ)ハ(ヨ)イ(ト)親(シ)ハ(蓋)ツ(ル)今(ノ)人(非)人(ト)イ(コ)モ(千)道(原)モ(ノ)ナ(ド)蒙(非)  
カ(ラ)区(シ)家(ヲ)破(ル)ニ(聖)人(ナ)ラ(ズ) 〇(六)四(外)比(外)卦(テ)シ(タ)シ(ム)ニ(外)比(ト)ム(カ)ソ(ウ)斗(リ)テ(ナ)イ(四) 宰(相)大(臣)ノ(位)ニ(各)記(記)ニ(出)テ  
アリ(海)相(ハ)内(証)ニ(君)ヲ(連)メ(ヌ)ケ(レ)バ(サ)ラ(ヌ)又(ウ)ハ(バ)後(ハ)ユ(ケ)レ(バ)ナ(ラ)ヌ 君(憚)尔(謀)シ(内)証(テ)故  
ヘ(テ)公(ハ)君(ノ)思(シ)古(ノ)感(心)ト(云) 内(証)ハ(強)メ(ケ)シ(ケ)ハ(ス)ル(外)ハ(テ)シ(ク)シ(ム)ト(云) 必(何)ニ(賢)也(文)ニ  
君(ノ)一)シ)ヲ(モ)テ(向)テ(君)ニ(シ)カ(ウ) 此(謀)是(我)君(之)信 礼(地)坊(地)引(之)

○九丘ノ斗リヲ主ニ居リ支ニ  
一ノアール礼祀天子不各團  
五ノ下下三ノカカニテ一ノ方ツ  
是坤邑也ソノ中ニ陽凡ニ一  
通上六攻曹道ソノイタリス  
ハ我ノニテタハ巳レソムイ  
タスカフヨサソリカガソウ  
ニルニ玉脚天子所ニ一敗比  
テニカカニテ一ノ方ツニケ  
ソムケトニテテ觀レシム  
人陸ツワリス如物ニ  
トモ考シ 上大也曹道ニ  
ソムリモノモアル上何事  
カラフ道理ニアラワテツル  
○上六比ノヲハリスニ  
又ニシテ巳レコレニシタ  
タシムヲキヤ又 乾元首  
司ム 象ハ七トヨシカ  
○上六比ノヲハリスニ  
又ニシテ巳レコレニシタ  
タシムヲキヤ又 乾元首  
司ム 象ハ七トヨシカ

小畜

序卦ニタリクニオノルニ  
卦有小火高卦ヲ小高卦  
ト云シス一ノ陰ヲ一ノ陽  
ラト、ノルニ一ノ高ト云  
○小畜亨 有イトメラル  
亨ル美アリ一ノ陰ニ一  
ルルニ一ノ高ト云シス一  
不雨象也 亨高曰天カ  
道美聖人 邦即師 元  
雨フラス 雨ニ下カ  
フタカシエ一ノ高ト云  
獨往ニト云シス一ノ高  
傳ハナニモナラヌニ  
人事ノ一ニワケテト  
ノ学ナリト云シス一ノ  
ヲト、ニ其内曰高君  
王ノ邦心ヲトメテ  
○小畜 亨 有イトメラル  
亨ル美アリ一ノ陰ニ一  
ルルニ一ノ高ト云シス一  
不雨象也 亨高曰天カ  
道美聖人 邦即師 元  
雨フラス 雨ニ下カ  
フタカシエ一ノ高ト云  
獨往ニト云シス一ノ高  
傳ハナニモナラヌニ  
人事ノ一ニワケテト  
ノ学ナリト云シス一ノ  
ヲト、ニ其内曰高君  
王ノ邦心ヲトメテ

○九ニ車後ニ女ト相シイテカハ九ニ其ニテハノ象アリ  
亦美シシイテス山人ナレトシテ夫ヲ妻トシテ夫トシテ  
テナヒ比ノニ支ニ不自失トシテ象ハ別存シソレ対メ亦トシテ  
ハハレヌ

○九ニ車後ニ女ト相シイテカハ九ニ其ニテハノ象アリ  
亦美シシイテス山人ナレトシテ夫ヲ妻トシテ夫トシテ  
テナヒ比ノニ支ニ不自失トシテ象ハ別存シソレ対メ亦トシテ  
ハハレヌ

○九ニ車後ニ女ト相シイテカハ九ニ其ニテハノ象アリ  
亦美シシイテス山人ナレトシテ夫ヲ妻トシテ夫トシテ  
テナヒ比ノニ支ニ不自失トシテ象ハ別存シソレ対メ亦トシテ  
ハハレヌ

○六四血陰象一休坎ノ象ニ暢坎象況卦坎為憂易坎がカキヤクニ坎ヲ下ハカリ  
シテヲリユハ血モ去リテシテ暢モ出テシテツツルカシトメテハ己ニ君ハイケン

スルがこし中アハ成サハアレバツイニ各ナリモシ字ヨリ出テヌケルハイタミモアハシ有子  
一ツババが密心ノマヤト又人ニ信ヒラル、又此レシノアルヨシ三ツアリ此ハコナニマコトアルカ  
ラ君ニ信セラルハ、多ク見知信セラレヌ日ニハ依テナトアリ、滿居未見、此ハコナニマコトアルカ  
子ニニ多アリ、上ノ志、上ノ女、大女、ナシ、ヒツクル、ニテ、カ、一ツ、ニ、各、メ、モ、ノ、タ、ス、ル、ニ、モ、  
体ト、メ、ラル、モ、ノ、ハ、三、女、が、主、シ、仰、文、ス、ム、カ、四、テ、ツ、サ、レ、此ハコナニマコトアルカ  
ニ、ナ、レ、バ、ツ、サ、レ、ラ、レ、ル、味、アリ、臣、モ、仰、信、名、ト、ツ、ナ、レ、バ、ツ、サ、レ、ラ、ル、  
ツ、サ、レ、バ、ツ、サ、レ、ラ、レ、ル、味、アリ、臣、モ、仰、信、名、ト、ツ、ナ、レ、バ、ツ、サ、レ、ラ、ル、  
シ、サ、レ、バ、ツ、サ、レ、ラ、レ、ル、味、アリ、臣、モ、仰、信、名、ト、ツ、ナ、レ、バ、ツ、サ、レ、ラ、ル、

○此レハ三類卦アリ、既以中孚ト、復メノナカヒシ形ニテアルニ、曰ク、ツ、ム、コ、ム、ハ、三、ナ、中、字、  
ニ、アル、詞、中、字、ト、上、同、上、九、月、為、望、中、字、ノ、四、同、此ハコナニマコトアルカ  
ラ、三、泰、大、四、高、大、五、臨、文、ニ、不、同、上、九、の、功、ハ、復、ニ、テ、ツ、ル、形、  
ヒ、キ、下、四、ヲ、九、ヒ、キ、ア、ヒ、テ、向、意、レ、テ、モ、ノ、ラ、ヒ、キ、ト、  
又、ヒ、レ、不、是、ス、ト、ナ、リ、ノ、モ、ノ、ク、自、由、ニ、ツ、カ、ウ、味、アリ、  
一、有、大、策、ノ、ニ、ツ、ラ、フ、事、ハ、逆、信、信、業、ニ、ト、三、テ、ヲ、リ、テ、ト、ナ、リ、ノ、モ、ノ、ト、ヒ、ト、ツ、ニ、テ、  
ヲ、サ、レ、バ、キ、ハ、ツ、サ、レ、ル、シ、此ハコナニマコトアルカ  
○上、九、夫、妻、又、自、ト、コ、レ、ガ、主、シ、卦、密、者、不、向、  
多、カ、ラ、フ、コ、ニ、三、三、大、三、  
人、ト、ハ、卦、上、下、カ、ウ、左、側、シ、  
其、の、此ハコナニマコトアルカ

○復古一礼履也礼記中多ク言フ仲尼並居祭義一布卦ハ高アツク有礼ト礼テナケルハ下ラ  
ワレケルハナラモト礼ニテ礼ス上者天下有是上言ルベキモノ上言リ下ニアルベキモノ下言リ上下尊卑ワ  
カルニ礼ト云

○復古一礼履也礼記中多ク言フ仲尼並居祭義一布卦ハ高アツク有礼ト礼テナケルハ下ラ  
ワレケルハナラモト礼ニテ礼ス上者天下有是上言ルベキモノ上言リ下ニアルベキモノ下言リ上下尊卑ワ  
カルニ礼ト云

○復古一礼履也礼記中多ク言フ仲尼並居祭義一布卦ハ高アツク有礼ト礼テナケルハ下ラ  
ワレケルハナラモト礼ニテ礼ス上者天下有是上言ルベキモノ上言リ下ニアルベキモノ下言リ上下尊卑ワ  
カルニ礼ト云

履

○鹿乾のこたに免ツ西方鹿ノ象ス良テ免ツムト云非乾フムモノハ免ノ卦ニ乾剛健ノ象鹿ノ龍ノ尾ハ  
鹿ノ尾リシニ是非ノヒワカレベキニクハニハ易而象也(免ハヤハラヤ候也)如フテモエテカガ英テツバ  
打テカウラヌニ(ニハ)寧ルニ上ノ直モ免順テ剛ヲ制ス(此卦ニ至テ別ノソノ理ツ明ニテ)乾ノ上ノ鹿  
ノ首上ノ提耳ガ尾ニ三ノ免フシテ象免ト云クワ理ナレ免ガ攻功モククハキル愛エハ  
人ヲリテハエ象アリ人ノ危ニ臨ニテモニウハサレバヤラレエツツム 象 象免ノ所乾也又  
三爻ノ象ノ位ニ陽ヲ任ス(端中) 説免乾乾ニ云クハ悦ニテマシラヒテラレハ初ツクハ又  
剛中止立文陽中ニミシイテ 不疾キスナイフツム光明乾ニ云又立象アリ 後帝位夜鹿  
尾ニアリテツル 鹿天子之位ニ付ルカキテ不疾不嗔(光明也) 旨ニ説ク果々  
ト帝位ツムケレ中ニミシイ得タ人ニ(ウラハレニ)立女ナクヤハリ夜鹿尾不嗔ヲ犯ク物層ニ  
鹿尾尾ツムニ如レ保則ト云 象曰正民志上下尊卑ノ口ナナケレ惜然ツ肆ニミシテ上ノ  
子ヲ免辨上下上下下ノ象 氏任欲ハ悦ニテ知リモ(乾天ノ威テ下ノ規ハ悦ニ節ヒリ悦  
ヲ断テレウシ)礼ノ制ヲ下ノモノトシラカサ(存臣志上正民莫礼善ココ)志ハ免ノ悦ツム  
礼ハ体ノ象ス(一)サテソノ用ハ和ツ向テ礼之用和ガ貴 乾尊徳下ノ免ニ和悦ノ象アリ  
立象ノ節又アリ 又互ニ象ノ格違アリ 上乾礼体下兌礼用(二)ニテ卦ヲ礼ニ属ス正民志  
果礼礼一氏志防礼氏治トナリ

○初九 履ノ下ニ居ル 貞減ノモトニ安ニテツル人 素質素ノ義アリ 季素ニ安ニテ居ル 性ココカラ  
スニミエイテモ質素素方ニ安テラレハ免格ニ大名ニテモ素ノカツ失ハヌ又互ニ免ノ象曰  
晋初大独行也ト在津例素ツル人ノ独リ性甘向人ノ意也(三)コワガ此人ハ別ニ己ガ親  
ヲテツル也ヲ行テ居ル人ナリ 此人道ヲ行フツツ免フ人ノ大高漢可敬キ人ハ高貴ヲ獲フ

○九二 山人 道者ツ云ニ山人ト云下下下ニ隱者ハ中尺ノ中(ハ)ハテツルニ 純味ニ同免尺ニ此  
人ト云也(道ニ真中ナレキ平ラ)中ヲ得ツツルニ担ノ象アリフキノ季ラニ非ス 道ヲム也担ニ  
ケルキツカイニツリハ物ノ君子坦焉中津居易持命己ニシテ山人ト云ワツ免レウツ吉ニ  
中ハ中ニミラフムト(不自乱) 臨声也 象外物ノミタサレル人ナリト云テ 革キ乱也  
中ニト云テカケコトハ心中ニツム  
○六三 此ニ一 文主文ニ 眇能視 眇一 雷以收妹 初ニニテ云コトニ文ニテクメテ云陰在陽位已レ  
カオハ拙ク礼ハヨイツムヨリミラレムヨリアルカレトトリキムハ在陽ニ氣ガカワツツルニ 主意ニ者ノ  
目互ニツリ 象目不正眇ノ象免ノ疑折ヲツラワツルニワケツサレ免象 象為正ガ免テリニ  
キラレニ 履尾尾 咥出 上ニ体ヲ云コトハ一 文ヲ云 就免ト云ト云上九履ノ首ナリコナシ不嗔  
ノ象アリコナシ免ガ免シコナリ又ミラ人位ト云人ノクツラ象也 三多凶以陰居三ニ別メツルニ 象人  
凶ト云也(武人 變初大武人アリ互高ガ甲習ガ父兵 乾金象免ニ馬ノ象免レモニ西  
方南社ノ卦ニ武人ハ人ノツゴスモ) 上ニ上ニ為人位武人ノ出也(武勇ナ人ヲムカフ大君ト云  
目キ字不運也) 大君ト云君ノ字也 六三陰ヲルテ陽位ニ上リ才位ツリ免  
眇ニモヨリミルト云 履尾尾 不嗔 人モ象ニ(免也) 免ツコレハソウテナイカラ禍ヲカウムル  
武人ノ大君 此卦礼ノ象ノ卦ニヨリ人ハ礼法ヲミル 禮度武勇ノ人ガ大君ツル犯スツツ  
君ノ季免容天ホツカ云 重阜天子ヲカ云ヤウニ 清威義伸(此卦義伸ニ当ルツツ) 志剛也  
自カモ免サレヤウニ 不忌以有明奉トウニミルノ志ナリ 位不當 信テ陽位ニ居ル 志剛也  
陰柔ノ卦テ陽ノ位ニナル 才柔持テ志氣象斗リツツ(一) 礼儀ハ武人ノ犯スヤウニ 周公ヨリ







坎象旁ヲシカハ三勿恤也坎ナリルニ三食坎也福陽也又上六一老婦夫ヨリシケルモ  
陰の負陽の負也坎象の理也三陰ハウフアリト云々也大平久シクナヒキヤ  
ナカハカタルキガクテハ性ホト東ノ一ノ人ガ外ヘイワカクイワケルヘラエトホトナヒ  
王名ガ條壹身ルル日由走ナトシリカケリト云々也時運命シテラハト云テ  
時運ト云テカセテウケル聖人ノ易ハ無用ニ取負明夷ニモアリ明夷ハ聖人ノ徳ホトヒキ  
云々也ガ後人明夷カリシト云々也ソレハイワケテ君子ウカリシテラト云々也用ラレ  
セズト云テ大難ト思テラレ時不収不難定福無期也君不難ムワカンクト思フテ貞ト正シ  
堅リ守テラレシ正ト云々也セラレシク是浪負ノ二字テシカハ其數字四ナラズヤ人  
士同セシテ用ラレシ若シテカシテ衣旧信已レカモチニ一ノナイウイツ央ハズラレシ  
云々也フタモノヤムクライテハイカ又取負ニシテサハアホクヨ一際也天也交レキシラレ付上ヘ  
イ多陰カリテテ否卦ニテリテニウ

○六四 傳言ナクテ疾ク正況シ君子テクモリ非初也与也見今送送出サレタカカテ下リテ  
ル震動ノ象不富陰土ニシテ邦陰同土也云々也上ニ来ルニ  
不富ハ其種 富ハハリノ物デトナリモノ取ハカハ不富トナリト典ニ用テ同ニナリ  
トモ朝送ハカヘリタカフテラレニ一曰ト云々也戒ニ一曰ロニイカセルニヤコカハルニ不戒レヒ  
同意ニシテ相信ノ同ト云々也カヘリテリルゾ云々也性不復クマテ云々也 實陽宜陰履シ陰  
同土履ニシテカケケ同シ陰ハ下ニシラレベキ也實地ニ上ヘイワタハ宜ク先クソレテカヘリ  
カフテ也 中ニ有テ子シトク人彈冠ニシテクニワク履ニ乗ジテイカハサズヒニナリ

小人又来ん故也

○六五 帝乙の妹 故妹ノ五女同シ互トト故妹也本義ニテ語類ニ互トト云々也 帝乙故妹タミ云  
出テラレト云々也 故妹ノ親ノ一 帝出表一帝象乙震東方象又坤内甲ガシ故妹  
父ノセテアリ故妹カラニ一陰陽同ト云々也 己ニ信ナク表君ノイワケニ帝乙故妹ノ一  
フルイ人ニ一故妹東陽ト云々也 故妹ノ親ノ一 帝出表一帝象乙震東方象又坤内甲ガシ故妹  
始メニ作ル也イワケニ云々也 故妹ノ親ノ一 帝出表一帝象乙震東方象又坤内甲ガシ故妹  
三ニルニ云々也イワケニ云々也 故妹ノ親ノ一 帝出表一帝象乙震東方象又坤内甲ガシ故妹  
ルニレ来君ニ一故妹ノ親ノ一 帝出表一帝象乙震東方象又坤内甲ガシ故妹  
先主レ明シ君ニ一故妹ノ親ノ一 帝出表一帝象乙震東方象又坤内甲ガシ故妹  
又 中ニ有テ也 中ニ有テ也 中ニ有テ也 中ニ有テ也 中ニ有テ也 中ニ有テ也 中ニ有テ也  
同位ニ生テラレシ中ニ有テ也 中ニ有テ也 中ニ有テ也 中ニ有テ也 中ニ有テ也 中ニ有テ也 中ニ有テ也  
何ナクテ大平ニ云々也 臣ニトルガ中ニ  
○上六 城トテ一石垣也 故妹ノ親ノ一 帝出表一帝象乙震東方象又坤内甲ガシ故妹  
カラホリ出ル也 故妹ノ親ノ一 帝出表一帝象乙震東方象又坤内甲ガシ故妹  
タリ 故妹ノ親ノ一 帝出表一帝象乙震東方象又坤内甲ガシ故妹  
二三女カラ上ノ師ノニ云々也 邑坤象 故妹ノ親ノ一 帝出表一帝象乙震東方象又坤内甲ガシ故妹  
カサチカハ家國ガ子孫ニテ無ニテリテニ一城ガナリナル也 故妹ノ親ノ一 帝出表一帝象乙震東方象又坤内甲ガシ故妹







野ハソノ外ニ即野ノトニナリシ野ノ次ニ腹腹クフキアノユ三其悔ニ于野ハ志ヲ得ク  
ソノ近イ其ユ志未得ト云是亦ナリ即ニフキアヒンテノキキ外ト云フキユハ不

車氏詩跋字經臣五峰先生之書也



外篇

駢拇

馬蹄

在宥

天地

天道

天運

胠篋

莊子













































多クハノ 役使シテハ 并古臣洋楽也 是ニ 呂忠仰アハスト大非ニ  
下ノ文曰 者子為道併耳目之施国併全 至願一頭ノ誤至テノキラカトモノ

富強トシテ 又庚業楚 貴富頭破名利 至貴國ハ  
天子ノ一ニ至テモイモノ 横政ヲノイテ 上ノ至テヨリモノ 至テ貴ハ至

天壽良豊ノ一汝ニ 至テ道盡所盡者 至テ成之  
至テ在平成而平未成 至テ天ニツリリヤ 至テ不夫 至テ南洋終至貴一 精神訓出 至テ在塊

明鏡之費富名ハ 至テ至テフツツハ 至テ通ハ 至テカハリヤ 至テ至テ  
生官居不ノ方至成ノ海ニ 胸中ハ 至テ道ヲカハリヤ 至テ至テ

北門成 咸也 至テ帝來ニ 呂氏 至テ古業フルイフツツカニ 至テ又黃帝ヨリモノ 至テ至テ元祖ニ  
又成也 至テ至テ至テ 至テ禮儀擧テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ

至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ  
至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ

至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ  
至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ

行貧賤君子 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ  
下中 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ

至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ  
至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ

至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ  
至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ

至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ  
至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ

至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ  
至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ

至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ  
至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ

至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ  
至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ 至テ至テ至テ至テ



ラニ天枝ツクノ方テハリハ心ニ托神ツクセカト上直ニ知ルコト也此知用コト不考老如無  
正在コトシクハ修ヲクマシタレシ位身目内通而外ハ智コト也知此知用コト不考老如無  
方ニハカ天ノ自然ノ業ニ天地世界ノククワコトクセカト天通ヲ天  
合謂天業ノ業ヲ是道業ヲ天住無鬼同仰テ是非ヲ言ニカト天通ヲ天  
ノ業ヲ天ノ業ニ至テ爾リ百物ハ山木ニ出取天業ノ業ニ不考老如無  
地ニ在リテ知ルモノ格ソコトニハイルコトキヤ又惟此ハ外妙ノ善何ヲ礼ラ  
リトモノ業ニテアルニ推レテ不考老如無道ニテアルコトニ是道ヲ修メテ向リ  
テニ此テ考レタルニ念味ハ山木ニ在リテトクワコトクセカト天通ヲ天  
業ニ此徳用ヲカセカトカワルキ也此徳用コトニ蒙卦同味ニ身目ノ徳用ヲ  
身目ノ徳用ニ道ハ其ノ徳用ヲカセカトカワルキ也

抱腹談



NO 16.4

抱腹談

千里之馬モ白棄ヲ得サレハ空ニク老テ終ニ其印ヲサス下和カ璞ハ楚之文王ニ見ヘテ遂ニ光ヲ現ハセシトカヤ予周易ニ於テ千古未祭ノ見解アリ門ニ入ル者ハ悉ク祭明スト雖ヒ他ハ未タ以テ之ヲ真トセス嗚呼吾之ヲ何如セシ永ク書ニ傳ヘテ君子ヲ千歲ニ待シ一日我親友加藤貞藏ナル者未テ我ニ説テ云子カ寶ヲ懷テ善買ヲ待事年既ニ久シ今天下文明ニシテ世ニ哲人名家ニシカラス子徒然トノ買ヲ待ヨリハ往テ名家ヲ拜シ何ソ其監訂ヲ乞ハサル今一翁佐藤先生ハ海内ノ碩儒也我幸シメ之ト曰未ノ知己ナリ子モシ我言ニ隨ハ我且ク紹介スヘシ予云古来賢哲之士多ハ在世ニ用ヒラヌ後世ニ至テ其名ヲ高スル者也在世ニ其名ヲ夷スモノハモシ抑愿ニ非ハ多クハ賣藝名利之徒ナラニ是ヲ以予當世之高名家ニ敢テ見テ下ヲ好ス真藏云子何ソ一翁先生ヲ名利之徒ニ比較スルヤ抑當時ニ於テ天下之人物也殊更老幼ニシテ而モ經學ヲ專トセリ我此事ノ紹介ハ必シモ子カ為之故ニ



非ス子カ道之世ニ行ハレサル夏ヲ憂ル者子カ門人ニ於テ幾許ヤ我聞易ハ聖人之大經ニ  
天下之至寶ナル者也故我天下之為子ヲ一齋先生薦テ其易ヲ普シ四方告知  
メニ夏ヲ欲スル也是於テ予遂ニ加藤貞藏子随テ往テ一齋先生見ニ先生云易ハ我  
専門ニ非スト雖凡而モ亦子カ説ヲ聞ハカハルト云易ノ外ニラスト云蓋モ有歟予云吾不學  
短才廣ク識夏ナシ何ソ先生益ヲ獻スルニ足ニヤ然レモ吾周易ニ於テ古人未嘗見解  
アリ先生希クハ吾説ノ玉石ヲ監訂シ賜ハ事ヲ其言若石ナラズ則吾自ラ碎テ之廢  
玉ナラズ先生ニ獻ニ先生云專門ノ學ニ非ハ其監訂ハ如何アラシ先以テ其説ヲ聞ハレト云  
予少年ヨリ心ヲ周易ニ留テアラシ周易書ニ眼ヲ曝シ研究スト雖凡更ニ通ルヲ不得初  
程傳本義及ヒ周易句解等ヲ復讀メ少ク得タルヲアルカ如シ中頃ハ蒙引大全等  
古註及ヒ諸家之旧説或易緯乾策度之類ヨリ和漢之珍書又ハ奇説異見等ニ至ル迄廣  
益疑ヒ密ニ愈迷テ是全吾愚昧ノ然ラ令ル所ナリ抑聖人之道ノ深旨幽遠ナルカ故乎後ニ  
周易御纂折中ヲ讀ミ至テ曉然トシ思ヒ得夏アリ夫此書ヤ天子之富ヲ以テ四百餘州

之名家ヲ撰テ以テ天下之易説ヲ梳上名者也然レモ此書ヲ看テ未易ヲ明解スル夏ヲ不得當  
ニ知レシ易ニ於テハ絶テ天下見キ書ナキ夏ヲ知退テ考ルニ易ハ二經七傳ヲ備ヘタリ經其  
傳トシ全フテ而其書通シ難トスルノ理アラヤ蓋モ古來幾許ノ易説一モ之ヲ釋シ緒ヲ得  
サレハ也是ニ於テ予悉古人之註釋ヲ掃去シ古人易ヲ讀ハ軌轍ヲ脫離シテ本々古  
存スル者ヲ撰テ深ク七傳ヲ参考ス果ノ易ヲ釋シ緒ヲ得タリ猶暗夜ニ小燈ヲ見シタ  
ル者ノ如シ其緒ニ取續テ漸々道ヲヒラキ理ヲ究メ精力ヲ盡シテ遂ニ其七傳ニ流通シ  
紐義ヲ明ニスル夏ヲ得タリ是ニ於テ始テ易ノ廣大ナル夏ヲ知ル且聖人之心意ヲ見テ  
始テ聖人之道ヲ知ル夏ヲ得タリ先生云長文之序言ハ聞テ無益何ハ速ニ其見解  
スル所ヲ謂サル予云吾易謂チハ普通ノ説ト天地懸隔セリ倉卒ニ語ラハ忘ラ先生ヲ  
及テ疑ハシメ而已蓋シ其言短ク早ク條理ヲナス者ハ易之數也吾將數ヲ語ラントス夫數者  
世界萬邦ノ法ヲ同ラスル所ニ聖人法ヲ立ル本トシ賜ヘリ先生云然ラ問ニ大衍之數五十  
河圖ノ數五十有五者ハ是何ヤ予云大衍之數五十者ハ數ノ起原ヨリ論セサル

八則以明之ハカラス五十有五十有五者ハ一ヨリ十ニ至ルノ積實ヲ而モ天地ノ全数ト云者也河  
圖ニ大衍ノ象備ハレ其五十ト五十有五トハ説自ラ異ナルカ如シ先生云非也誠ニ五指ヲ屈  
伸メ数ヲレハ屈スルニ一ヲ以テスル者ハ伸ルニ十ヲ以テス屈スルニ二ヲ以テスル者ハ伸ルニ九ヲ以テ  
屈スルニ三ヲ以テスルモノハ伸ニ八ヲ以テス屈スルニ四ヲ以テスル者伸ルニ七ヲ以テス屈スルニ五  
ヲ以テスル者ハ伸ルニ六ヲ以テス然則一指各十有一ヲ具ス五指ニ五十有五也故ニ大衍  
之數ハ五十五ニ河圖ノ全數ハ五十有五也予云吾少間先生之説ヲ聽ク欲セズ先  
生之説ヲ聽ク然レ後吾説ヲ語ルバ吾敢テ先生ノ説ヲ折トセニ吾他ト鬪論スレモ  
セズ豈今先生ト鬪論スレハケヤ○先生問夫數者一ヨリ十ニ止ル也蓋其初數ヲ定ル時  
一ヨリ八ニ止レモ可也且一ヨリ十二進進テ止レモ可也然ルヲ必ス十ニ止ル所以ノ者ハ是  
何ヤ予云數ハ人之五指ヨリ出ル也故ニ數ノ順數アリ逆數アリ一ヨリ五ニ至ルヲ順數トスル者指ヲ  
屈スル數也六ヨリ十ニ至ルヲ逆數ト云皆指ヲ伸ル數ヲ云凡テ五指ヲ屈伸メ物ヲ數フルモ世界  
萬國ノ通同スル所ナリ是故ニ數ハ必一ヨリ十ニ止ル也○先生云非也數ハ易ニ取テ四象ノ位ヨ

リ出ル所也四象之位ハ老陽ハ少陰ハ少陽ハ三老陰ハ四也四象ノ位也數ニ非ル也其二二三  
四ヲ積テ十ト成ル者是所謂數ノ始テ十ニ成ル所也是故ニ老陽ハ十ニ其一ヲ位トシ其  
九ヲ數トス少陰ハ十ニ其二ヲ位トシ其八ヲ數トス少陽ハ十ニ其三ヲ位トシ其七ヲ數ト  
ス老陰ハ十ニ其四ヲ位トシ其六ヲ數トス是故ニ其數ト位ト合スレハ何モ十ト成ル是  
數ノ一ヨリ十ニ止ル所以也予云先生又説ヲ示シ賜フ莫勿レ少間吾見解スル所ヲ言  
シ先生キリス頻ニ説ヲ出ス今悉ニ此ニ出ス予再三止ム先生終ニ不止吾ラ言サレム  
予貞藏子ニ謂テ云子先生ハ吾ヲ何ト紹介セラレタルヤ吾今日先生ハ見ルハ吾易説  
一二ヲ演テ先生ハ監訂ヲ乞ハント也嘗テ先生ノ易説ヲ拜聴セシハ非ズ貞藏云然リ  
其言ノ如レト先生云今足下ノ演吾スル所ヲ聞ニモ感心スル所ナレ然ルヲ千古未  
見解アリナト謂ハ甚抱懷ニタヘス天下普通ノ論説ナラハ吾亦何ノ為ニカ監訂ヲ乞フヤ  
何トモカ監訂ナルキヤ予云天下普通ノ論説ナラハ吾亦何ノ為ニカ監訂ヲ乞フヤ  
其普通ナラサルカ故ニ千古未發トハ言ナラヌヤ先生普通ヲ尊ハ是也且勿ニ於テ



普通ノ説ニテハ更ニ解シ得ヘカラス先生既ニ過テリ○今新ニ論書ヲ呈ス予生来他  
ト闘論スル莫ヲ好フス雖然先生天下之大儒ニ大ニ其道ヲ過夫セリ普ク世上ノ人ヲ  
其誤ヲ信セシメニ莫ヲ懼ル論ニ於テハ吾イサカモ私意ヲ雜ハス先生モ亦私意ヲ挾  
トテク希ク天下之為ニ公正之心ヲ以テ一覽ニ賜ハシコトヲ○先生老少陰陽ヲ  
以テ説クナス老少陰陽ト云莫易ニ此名ナシ古人未タ四象ノ實ヲミラス何ヲ以テ其名ヲ  
正ニクスル莫ヲ得ヘケヤ繫辭云陰陽合德而剛柔有體説卦云立天之道曰陰  
與陽立地之道曰柔與剛當ニ知レ陰陽ノ无形之名也形アハ是剛柔ト謂形體ナキ  
者ニ老少アル所謂ナシ老少陰陽ノ文字當ラズ抱腹スヘキ予易ニ於テ古人之徒  
啞ヲ嘗ス外物ヲ假備ハス聖人ノ書ニ非レ説クナク又數ヲ論スル至テ書ノ洪範ヲ據トス  
洪範亦予説アリ素ヨリ易ノ外非ル也四象ノ夫何ヤ洪範ノ所謂水火木金也洪範  
水火木金土五ノ者ノ德行ヲ謂フ故ニ稱ノ五行ト云易ハ水火木金四ノ者ノ運動變化ヲ  
謂フ故ニ稱ニ四象ト謂フ其土ヲ謂サル者ハ土無為不動ノ者ナシナリ其數ヲ謂フ寸ハ六

ハ水勿ハ是ヲ陰ト云二七ハ火也易ハ是ヲ陽ト謂フ三八ハ木也易ハ是ヲ柔ト云四九ハ金也  
易ハ是ヲ剛ト云水火ハ氣ニ空中ヲ昇降ス故ニ陰陽ト稱ノ以テ天道ノ自セリ木金ハ形ア  
リ土中ヲ出入ス故ニ柔剛ト稱メ以テ地道ノ自セリ古人未タ陰陽柔剛四象ノ名ナシ  
莫ヲ不知強テ老少陰陽ノ名ヲ設ク豈抱腹セザラヤ先生云數ハ四象ノ位ヨリ出ル  
ト予按ルニ支那ニテハ其説モ可ナラン予未タ易ヲ知ラサル國々何由テ數ヲ定メ名  
ヤ是亦抱腹スヘキ也○先生河圖大衍一指十ノ説ヲナス夫數ハ一即十々即一何ソナ  
ノ外ニ又一ヲ添ルノ理アラヤ數ハ人之五指ヨリ出ル所也五指ヨリ出タル數ヲ何ソ煩  
ハシク再ヒ五指ヘモツケニヤ河圖之數五十有五ナル者ハ素ヨリ天地之全數ニ一ヨリ  
十二至ルノ積實ト謂テ明ニ莫足ハレ何ソ一指十ノ説ヲ待ヘケニヤ且大衍之數ハ此  
ト同ニカラス今試ニ數ノ起原ヲ詳論セシ夫數ハ形ナレヲ以テ大祖トス大祖ノ六其  
象ヲ知ヘカラス必其位ニ就テ之ヲ求ムヘレ何ヲカ位ト云ヤ上下ト云前後ト云左右ト  
東西南北ト云皆是位也然則太祖ノ一其位タルヤ何如ト云ニ上ニ非ス下ニ非ス前ニ非

後ニ非ス右ニ非ス左ニ非ス東西南北ニ非也名付テ是ヲ正中ト謂フ當ニ知レ上下ト云名  
ハ正中ヨリ指テ上下名ツケタル者也下ト云モ正中ヨリ下也前後ト云左右ト云東西南北ト  
云モ悉ク正中ヨリ命スルノ名ナル也又テ大祖ノ一即此ニ位ス然則其象自可知天  
地未アラサルノ前既ニ大祖ノ此ニ存在セリ若夫天地ハ盡ル也又アリテ大祖ノ一ハ自若ク  
動ク可カラズ不盡不窮無為不動生テ死テ始テ終テ易ニ是ヲ大極ト謂也  
天地ニ是ヨリ生出シ四時モ是ニ由テ行ハレ萬物モ之ヲ養テ發育ス是アラハレ生物  
本元ニ活物之長タリ洪範ニ是ヲ有極ト云中庸ニ是ヲ天下之大本ト謂フ夫  
地ニ主トメハ神ト云萬物ニ在テハ靈ト云人身ニ在テハ仁ト云聖人道ヲ此ニ取タリ  
故ニ夫子云吾道一以貫之曾子之ヲ其門人ニ示メ忠恕ト云忠恕ハ何ツヤ人ニ受テ  
己ヲ盡スヲ忠ト云己ヲ推テ人ニ及スヲ恕ト云也君子ハ彼ノ一志ニ得テ身ヲ正中ニ脩  
メ上ニ忠シ下ニ恕シ下ヲ忠シ上ニ恕シ前ヲ忠シ後ニ恕シ後ヲ忠シ前ニ恕シ右ヲ忠シ  
左ニ恕シ左ニ忠シ右ニ恕ス豈一以テ之ヲ貫クニ非スヤ大學ニ是ヲ絜矩之道ト云彼

君子ハ天下之正中ニ位メ善ク上下四方ノ和達ス所謂中和ヲ致メ天地位シ萬物育スト云モ  
也學者以テ此ヲ明セシメ有ハカラス大祖ノ其象如此夫既ニ正中アルハ忽正与トメ前後  
左右ノ四當アリ中ト西當ト合シ五トナル是ヲ小行ト云五シテ而其一各十トナレバ則テ大  
行之數五十トナル河圖亦自ラ此象アリ中央ノ五即小行ノ象シ其正中ノ一点即  
數之大祖ニ而亦大極ノ象也北方ノ九ト合シ十トナル者ハ中五北方ノ一ノ行タル也  
南方ノ二東方ノ八ト合シ十トナル者ハ中五南方ノ一ノ行タル也東方ノ七ト合シ十  
トナル中五東方ノ一ノ行タル也西方ノ四北方ノ六ト合シ十トナル中五西方ノ一ノ行タル也中央  
ノ五ヲ圍ムハ十八正中ノ一ノ行テ十トナリタル也是故ニ河圖ハ五ヲ本トシ五ヲ末トス本ハ  
君也末ハ臣也中央ノ五ハ中ト上下ト以テ參天ニ象リ左右ハ乃チ兩地ニ象ル行數  
之五十八天數二十地數三十ニ變ノ用ヲ為ノ象ニ著明ニセリ此河圖ノ數五  
十有五ニ五十ヲ大行ノ數トナス所以也○先生云數ハ始定ル時ニヨリ八ニ止リ  
テモ可也一ヨリ十二ニマテ行テ止テモ可也ト予按ルニ豈其然ニヤ聖人何ソ數ヲ於

スル夏ヲ得ニヤ夫教者人之五指因テ出ル雖凡唯是ヲ五指トシ思フハ愚ノ至也天地之數固ニ然ル夏有ヲ以テ人ニモ五指ノ備ハリタル者也若一天地ノ間ニ四指ノ國アラハ其國ハ數必一ヨリ八ニ止ルヘシ若六指ノ國アラハ其國ハ一ヨリ十二ニ止ルヘシ予未一天地ノ間ニ五指ナラサル國アル夏ヲ聞ス聖人若數ヲ易ヨリ取タマフト謂ハ何ソ八卦ニ取テ一ヨリ八ニ止メサル四象之一二三四ハ數ニアラス位也位ヲ積テ始テ數トナル説ニ至ハ實ニ抱腹ニタサレ也易ハ素ヨリ數ヲ以テ本トスルモノ也數ヨリ前ニ易アル所謂ナレ○易ハ一卦六十四變循還ノ端ナク六位三百八十四悉卦ニ隨テ往來變化セリ乾坤ハ象等ノ次第ハ即變易ノ序也彖ニ剛柔ノ往來及ヒ進退上下スル夏ヲ謂ハ乃其交易ヲ釋ス也是故卦ニ變易アリ又ニ交易アリ此其易ト名付ク所以也卦ハ時也又ハ物也時移リ物雜ル是故ニ卦ニ晦明アリ治乱アリ盛衰アリ又ニ君子アリ小人アリ父子アリ君臣アリ或ハ夫婦トナリ兄弟トナル辭ヲ推シ卦ヲ考ヘ又ヲ探テ以テ之ヲ詳ニスキ也辭ナル者ハ各其又ニ所

ヲ指ス故ニ辭々必ス愛ル所アリ必ス又送ル所アリ之ヲ迎テ善其前後ヲ詳ニスルハ六又各其情狀ヲ盡シ時隨テ進退交通ス始テ活物タル所以ヲ知キ也然ノ其夏ハ凡テ殷末盛周ノ夏實ニ當ル故ニ又辭ニ帝乙アリ箕子アリ象ヲ推シ又ヲ追テ以テ詳ニスルハ古公亶父及ヒ泰伯王季文武周公等ノ夏照々ト見ハタリ故ニ云易ノ興ルヤ末世周ノ盛徳ニ當ル耶文王ト紂トカ夏ニ當ル耶此周易ト題スル所以也古来易ヲ註スル者絶テ此ヲ察セス而皆一卦一爻離々断々説ヲナス辭々招應スル所ナク更ニ意ニ通スル夏ヲ得ス終ニ以テ謂易ハ聖人神術ヲ極テ甚深ク理ヲ語ル後世豈能ク知夏ヲ得ヘキヤ甚ニキ至テハ易ハ唯ト筮ノ書也ト云按易ハ聖人言ヲト筮ト闡ニ道ニ明ノ深旨ヲ述和漢ノ儒者道ヲ談ニ湯武放伐ノ夏及フナ誰カ敢テ眉ヲ擡ヘサフニ甚ニキ者ハ湯武者聖人ニ非スト云至ル是全ク儒者易ヲ不知過也和漢從來ノ易說其文義ヲ謂者ハ王氏カ略例ヲ左右スルニキス其象數ヲ謂者壹ニ邵氏カ先天說抱泥スル者也故ニ此ヲ除卻スハ普通數百家之易說一ニ取

キ者ナシ其他ノ奇議異見配當附會ニ成説ノ如キハ素ヨリ論スルニ不足也凡古今易ヲ註シタル  
視ルニ何レモ字ヲ据レ句ヲ據テ其餘下ニ就テ一片ノ理ヲ謂フニ未タ章句ヲ通シ意ヲ得タル者ヲ  
不見況ヤ數章ヲ列テ其意ヲ一贊スル者ヲ前モ論ス如ク易ハ二經七傳ノ書也經ト傳ト  
全ク備テ其書通シカタレトスル者ハ是何レ先ニ後條アリテ大ニ其道ヲ過失スル後進  
者咸其蹤ヲ蹊テ僻徑ヲシテ卒ニ大途ノ如クナラズ既ニ若斯ナレバ天下ノ英才ト雖モ亦能ク  
其方ヲ屈メ容易ニ其軌轍ヲ改ルコト不能於是一言カ衆盲ヲ引益以テ其本源ニ遠サカレ  
夫易ハ蚤ク七傳ヲ備テト筮ニ隱レ泰火ヲ避テ遠ク今ニ傳ハル奇ト謂ヘレ然レ古来易  
ニ志ス者皆從來之註書ニ惑セラレテ更ニ通解スル者得ス其寢スルに至レバ傳又各一家之  
易ニ經ヲ釋スル所以ニ非スト謂或經傳ニ錯乱アリト謂序卦雜卦等ハ後人ノ偽作ト云繫  
辭說卦ハ就中錯乱多シトテ文ヲ改メ章ヲ轉スルモアリ甚ニキ者ハ卦序ヲ改ルモアリト云不學  
ヲ廣ク知コナレト雖モ易ニ於テハ他ニ讓ラズ更ニ古人ノ糟粕ヲ糶ヘス一切外物ヲ備ハス正シク  
七傳ヲ流通シ經義ヲ解通スルヲ得タリ其道明シ古今ヲ一貫シ其言廣大ニ天地ニ彌論門ノ輩

皆能ク知所シ此易三千年ノ間更ニ明解スル者ナキハ天下未タ此易ニ用アラサル也今此易茲ニ  
稱活スル者ハ今ヨリ後此易將ニ用アラトスル者耶予曰東易雜十三卷ヲ看百東之文字  
人皆彼ニ對シ本邦本邦ヲ稱スト謂予ハ不然暗夜晴天ナレハ衆星赫々トシ先ヲ競ハリ早且  
至テ日輪東方ニ望メ衆星悉ク先ヲ失フカ如シ七傳流通ノ易世ニ出現セバ和漢從來之易說  
一時ニ滅スヘキ也是必シモ予カ強言ニ非ス易之稱活スルモハ天之時也先生歎シ公莫勿レ  
○繫辭曰書不盡言々不盡意然則聖人之意其不可見乎子曰聖人立象以盡意說卦以盡情  
偽繫辭焉以盡其言變而直之盡利鼓之舞之以盡神既ニ若斯ナレバ易ヨリ外ニ聖人之志意  
ヲ見得スヘキ書アルコトナレ聖人之書易ヨリ古キ物ナシ易ヨリ備タル者ナレ易ヨリ正キ者ナレ廣  
大ナルナシ儒者易ヲ不知則何ヲ以テカ聖人ノ心意ヲ見ニ易ヲ學ハスルハ道德ヲ何如セシ夫學者  
易ヲ明シ然後他經ニワタラズ譬ハ猶高山ニ登テ平原ヲ望カ如レ勞セズニテ條理ヲ辨ス  
若又多ク他ノ經書ヲ復讀シ其カヲ以テ辨ヘトスルハ燭ヲ照シ泰山ノ見テ欲スルカ如シ是以予  
此易ノ天下ニ明シ和漢儒者多ク或ク易ヲ以テ專門トシテ復テ欲ス然今先生ハ天下ニ大

儒易方專門トセス凡聖人ノ書易ヲ除テ儒家之專門トスキ者ハ其何レノ經ヲ吾甚ク  
惑フ願ク先生ノ實ニ專門トスル所ヲ聞ク得ヘケヤ謹テ考ル先生モ亦天下從來之易說  
惑溺スル而已吾今論書ヲ呈スルモノハ何ソ我意ヲ張テ以テ先生ヲ破カ為テラヤ實ニ此易  
ヲ先生ニ致メ先生ト共ニ抑テ天下永世遺之且此易ヲ普ク外國ニテ及ホシ吾天保之  
盛徳ヲ異朝ニテ輝リテ夏ヲ欲スル也夫如此テ各志テ聖人之道蓋シ誠忠ヲ天下ニ  
致シ今ヲニテ之ヲ萬世ニ仰カ云豈愈快ナラザラヤ先生亦私意ヲ狹ク希ハ天下ノ為  
公正ノ明慮ヲ以テ論書ヲ誦シ吾カ赤心ヲ感得シ云ハニテ吾何先生ヲ謗スル者ナラ  
ヤ多罪々々俯メ仁容ヲ請而已

有美玉于此三千年向天之所秘藏也天冷開  
匣使我獨聞之蓋三千年秘之者天下未有  
用於是也今使我獨聞之是玉將為用

漆保先生  
百所書錄



相承說

表章庸學。初于司馬光而程子繼之。其以學

庸合之論孟。謂之四子。亦謂之四書。則初于朱晦庵攷

晦庵題跋有書臨漳所刊四子後一篇。曰河南程夫子

之教人。必先使之用力乎大學論語中庸孟子之書。然

後及乎六經。故今刻四古經。謂書詩易春秋而遂及乎此四書

者。以先後之。晦庵文集四十五卷。答揚子克書曰。且如

今書四子之說。極荷見教。亦欲見四書次第。免被後人

移易顛倒。四書之目。初于晦庵。是其明證也。繼之真德

秀亦有四書集義。而四書乃始盛通行天下。元明以來。

遂以四書取士。國朝今日之制。本之于此也。但四書

既不同其作者。各自別行。而宋史繩祖又有大學孟子相承之說。蓋大學作於子思。而子思生於周末。于時利欲熾。而聖人仁義之道。將墮於地。故其書專明義利之辨。以終一篇。曰。未有好仁而下不好義者也。曰。故治國者不以利為利。而以義為利也。孟子學於子思。而生最遇六國分爭利欲橫流之世。人人遺父兄。棄君長。子焉而爭家。臣焉奪國者。比々皆是。故開卷乃主長仁義以破利。曰。王何必曰利。亦有仁義而已矣。曰。未有仁而遺其親者也。未有義而後其君者也。實繼大學末章之指也。此說自繩祖登之。真為新闢創見。而明儒譚貞默著三經見聖編一百八十卷。則又云。中庸者。子思繼論

論語而作。曰。天命之謂性。明是接論語知命章。中庸予懷明德。而大學之道。在明明德。此別有一篇大學即中庸中之一篇大學即中庸之後小半。實一中庸也。明鄭言鄭著荅陽草堂說書七卷。亦云。中庸以明德終。大學以明德始。大學實繼中庸而作也。於是四書相承之說成。此亦學者不可不知也。



